



勇建設株式会社 環境報告書

Environmental Report 2026

さっぽろふるさとの森協定 手稲山口緑地 (札幌市手稲区)



ゼロカーボン社会の実現を推進します

勇建設株式会社は、昭和31年4月に社員20数名をもって創業して以来、今年で70周年の節目の年を迎えました。これまで、北海道における社会資本整備を通じて地域社会の発展に寄与してまいりました。

当社が経営理念とする「堅実な経営」と「誠実な施工」に努め、「技術力と総合力の向上」を目指して、港湾建設工事をはじめとして土木全般にわたり事業を展開しております。

環境マネジメントシステムは、平成16年12月22日にISO14001認証を取得し、今年で22年が経過いたしました。

その間、事業活動を通じて自然との共生に努め、環境保全に取り組み、地域社会の期待と要請に応えてまいりました。

また、当社では、10数年前からCSRを取り入れた企業経営を進めており、「世の中をよりよくしていくことで、企業もいっしょに発展していこう」という考え方のもと、コンプライアンスの徹底や安全・品質の確保、社会貢献活動等とあわせて、環境基本方針を定め、環境保全活動を一層推進してきました。

とりわけ、世界的な課題である温室効果ガス対策について、当社では環境方針のもとISO14001シリーズを認証取得し、電気やガス使用量の削減、ハイブリッドカーの導入など、主に事業活動で排出される温室効果ガスを減らす取組を推進してきました。

政府は2020年10月に「カーボンニュートラル」を宣言し、北海道では「ゼロカーボン北海道」として、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指して取り組みを進めています。

当社においては、これらの実現を推進していくため、令和4年度より森林の育樹活動やグリーンカーテンの設置など、温室効果ガスの吸収量を増やしていく取組などに幅を広げました。



また、深刻化する食品ロス問題への対応として、令和6年度よりフードバンク活動への支援を開始しました。食品の廃棄削減を通じて環境負荷の低減、地域社会への貢献、合わせてSDGsの推進を図る取り組みとして、今後も継続してまいります。

70周年を期にこれからも、持続可能な循環型社会の形成に貢献するという信念のもと、環境活動を一層推進していく所存であります。

ここに、2025年度の環境活動を「勇建設株式会社 環境報告書2026」として、取りまとめました。

ご一読いただき、皆様のご理解とご支援、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

2026年7月1日

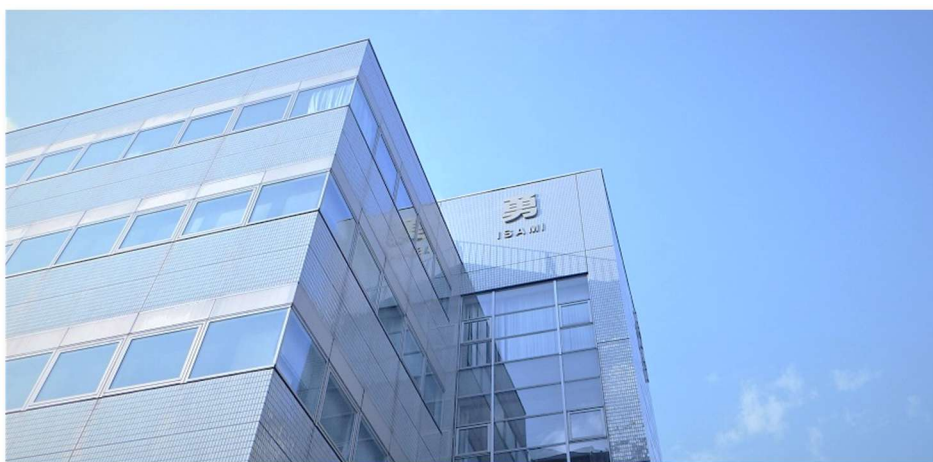
勇建設株式会社 代表取締役社長 坂 昭弘

CONTENTS

社長あいさつ



1)会社概要	P 3
2)環境マネジメントシステム	P 4
・勇建設環境方針	
・ISO14001 登録内容	
・ISO14001 登録履歴容	
3)2025(R7)年度 環境活動報告	P 5
・重点実施事項 1. 建設 DX の推進	P 6
・重点実施事項 2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動	P 9
・オフィス業務目標 オフィス業務における環境負荷低減活動	P12
・工事施工業務目標 作業所における環境負荷低減活動	P14
4)「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組	
・これまでの取組	P16
・フードバンクプロジェクト	P17
・新たな取組「J ブルーカーボンクレジット」	P18
5)工事施工時の環境への配慮	
・周辺環境への配慮	P19
・地域貢献活動	P20



1) 会社概要



会社概要

(2026年4月1日現在)

会社名	勇建設株式会社
設立	1956年4月(昭和31年4月)
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 坂 昭弘
本社	北海道 札幌市中央区北6条西14丁目4番地 電話 011-221-0171(代表)
釧路営業所 (帯広兼務)	北海道 釧路市若松町14番2号 電話 0154-23-5495
網走営業所	北海道 網走市緑町4番7-2 電話 0152-44-7248
室蘭営業所	北海道 室蘭市舟見町1丁目5番11号 電話 0143-24-5566
小樽営業所	北海道 小樽市富岡1丁目18番28号 電話 0134-23-1625
従業員	86名
関連会社	北弘機工株式会社 ・ 北勇産業株式会社



2)環境マネジメントシステム



勇建設環境方針

自然との共生に努め、環境保護・環境保全に貢献するため、以下の活動を積極的に実施する。

1. 環境パフォーマンス向上を目指し、環境マネジメントシステムを運用、維持し、継続的改善を図る。
2. 当社の事業活動の全ての段階で環境に与える影響を全従業員が認識し、環境負荷の低減と汚染の予防を目指し、環境保護・環境保全活動を実践する。
3. 環境に関連する法規制、顧客及び地域社会等の要求事項を順守し、地域社会との協調に努める。
4. 当社の環境活動に関わる環境保護・環境保全行動で、次の項目の環境目標を設定し展開し、必要時に見直す。
 - (1) 工事施工における環境負荷の低減
 - (2) オフィス業務における環境負荷の低減

2003年12月12日制定

2018年 9月 1日改訂

ISO14001 登録内容

審査登録機関	北日本認証サービス(株)<NJCS>
登録番号	NJE-017
初回登録日	2004年12月22日
NJCS 登録日	2007年7月24日
有効期限	2028年12月21日
適用規格	ISO14001:2015+Amd 1:2024(JIS Q 14001:2015+Amd 1:2024)
登録範囲	建築(土木)に係る事業活動

ISO14001 登録履歴

2004年 4月	環境マネジメントシステム運用開始
12月	ISO14001:1996年版 認証取得『登録機関:SCOPE-MS』
2005年12月	ISO14001:2000年版 移行
2007年 7月	『登録機関:北日本認証サービス(株)』へ登録移行 毎年外部審査を実施 (略)
2016年 9月	ISO14001:2015年版 移行 毎年外部審査を実施 (略)
2026年 9月	ISO14001:2015+Amd 版 移行

3)2025(R7)年度 環境活動報告



当社では、環境方針のもと全従業員が環境保全行動に取り組むため、当社の事業活動で環境に与える影響を認識し、オフィス業務部門、工事施工部門各々に環境目標を設定し、環境負荷を低減する努力を重ねています。また、紙・電力・都市ガス等における使用量の削減についても、日常の維持管理活動として取り組んでいます。ここに、2025(R7)年度の主な環境への取り組みをご紹介します。

年度 環境目標

環境負荷の低減をいっそう進め、「ゼロカーボン北海道」の実現を推進する。

重点実施事項

1. 建設 DX の推進

i-Con の取組推進

3次元による起工測量と設計、施工、出来形管理等の取組により省人化を進める

WEB カメラの活用

遠隔臨場による段階確認や出来形確認等の社内検査の実施、定点カメラによる異常気象時の現場状況の把握等、WEB カメラを活用し省人化を進める

建設ディレクターの導入

デジタル技術を活用した工事書類の一元管理等による、現場支援を通して工事の生産性向上を推進する

2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動

- ・「グリーンカーテン」の設置
- ・「さっぽろふるさと森づくり協定」に基づく育樹活動
- ・「さっぽろ水源の森づくり」への参加
- ・「海のクリーンアップ大作戦」への参加

オフィス業務目標

オフィス業務における環境負荷低減活動「エネルギー消費量の削減」

- ・電気、都市ガス、水道、灯油等のエネルギー消費量の削減
- ・自動車の燃費向上に向けたエコドライブの推進
- ・コピー用紙使用量の削減に向けたペーパーレスの促進
- ・3R の推進

工事施工業務目標

作業所における環境負荷低減活動

- ・工事施工における CO2 削減への取組チェックリストに基づく取組の推進

重点実施事項 1. 建設 DX の推進



i-Con の取組推進

3次元による起工測量と設計、施工、出来形管理等の取組により省人化を進める

(目標値:取組実施作業所数 80%以上)

評価

i-Construction の取り組みは、建設現場の作業効率を大きく向上させる重要な取り組みとして進めています。令和7年度は 13 作業所のうち 12 作業所（実施率 91%）で実施し、目標としていた 80%を大きく上回ることができました。これは、当社が積極的に ICT 施工に取り組んでいることを示しています。

本取り組みによる効果：

- ・ 3次元測量による起工測量の効率化
- ・ 設計データの高度な活用
- ・ ICT 建機を活用した施工による省人化及び施工精度の向上
- ・ 出来形管理の効率化と品質向上

特に、この技術の活用が必要な現場や、効果が期待できる現場では、すべて実施することができました。



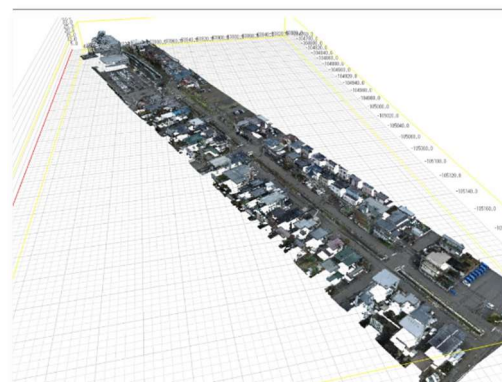
土木出来形スキャナーの活用



ICTモニター表示

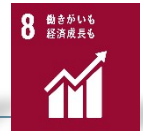


レーザードローンのよる UAV 測量



測量結果

WEB カメラの活用



遠隔臨場による段階確認や出来形確認等の社内検査の実施、定点カメラによる異常気象時の現場状況の把握等、WEB カメラを活用し省人化を進める

(目標値:取組実施作業所数 80%以上)

評価

WEB カメラの活用は、省人化を進める取り組みとして実施しています。令和7年度は13作業所のうち13作業所(実施率100%)で導入し、目標としていた80%を大きく上回ることができました。本取り組みによる効果:

- ・遠隔臨場による、発注者との段階確認の効率化
- ・遠隔にて社内検査を実施し、本社からの移動削減による業務効率の向上とCO2排出量の低減
- ・悪天候時における迅速な現場状況把握の実現
- ・作業負担の軽減による働き方改革への貢献



Safie を利用した WEB カメラ



ビデオ通話を利用し発注者と遠隔にて検査を実施



現場(生コン工場)と本社において、遠隔にて社内検査を実施



建設ディレクターの導入



デジタル技術を活用した工事書類の一元管理等による、現場支援を通して工事の生産性向上を推進する

(目標値：取組実施作業所数 1 作業所以上)

評価

建設ディレクターの導入は、各作業所で共通する業務をインターネット上のクラウドサービスを利用し本社で書類を作成し、現場の負担軽減を図る重要な取り組みとして始めました。

令和7年度 建設ディレクターによる現場支援（施工体制台帳等の作成業務等）

- ①北部載荷盛土作業所
- ②厚別中央下水作業所

本社において施工体制台帳等の作成業務を行いました。これにより、目標としていた「1 作業所以上での実施」を達成することができました。

令和7年度における、資格保有者は合計5名となっています。



企業におけるファイルを
保管、整理、管理、監査、共有
などができるセキュアで
高機能なクラウドサービス



重点実施事項 2. 環境負荷低減に資する地域貢献活動

グリーンカーテンの設置

(勇建設グリーンカーテンプロジェクト)



評価

この取り組みは、植物による CO2 の吸収と夏の強い日差しをグリーンカーテンにより和らげることで、エアコンの使用を抑え、電気の使用量と CO2 の排出を減らすことを狙いとし、令和 7 年度は、4 つの作業所でグリーンカーテンを設置しました。

CO2 吸収、CO2 排出量の抑制のほか、植物の持つ自然の冷やす効果で、周辺の気温上昇を抑える効果も期待できます。さらに、緑のカーテンがあることで、作業所で働く人々や訪れる方々に、やすらぎのある気持ちの良い空間を提供することができました。

令和 7 年度工事における、グリーンカーテンの設置状況

- ①北部载荷盛土作業所
- ②屯田茨戸道路作業所
- ③新千歳 RESA 東作業所
- ④基線通道路設備設置作業所



さっぽろふるさとの森づくり協定育樹活動



評価

手稲区山口緑地での森づくり活動として、6月に下草刈り、10月には枯れ枝払いを実施しました。定期的な下草刈りなどの手入れを行うことで、緑地が健康的に育つよう支援しています。この森づくりの取り組みは、地域の自然を守り、都市部の緑を増やすことにつながっています。また、木々が育つことでCO2を吸収する効果も期待できます。

この活動は、3,000平方メートルという広い範囲で行っており、令和4年度から令和8年度までの5年間、継続して取り組んでいく予定です。

1) 夏季活動

日時 令和7年6月17日(火) 9時30分から

参加者 15名参加(作業所: 屯田茨戸道路作業所、北部载荷盛土作業所)

2) 秋季活動

日時 令和7年10月7日(火) 13時30分から

参加者 11名参加

(作業所: 屯田茨戸道路作業所、北部载荷盛土作業所、厚別中央下水作業所)



海のクリーンアップ大作戦 イベント参加



評価

令和7年度は、昨年同様、札幌近郊での活動に加えて、営業所・札幌近郊以外の港湾作業所においても参加し、今年は全道4会場延べ21名が参加し、全道各地で活動を実施しました。（3年目）
各地域での活動を通じて、北海道の美しい海を守る大切な取り組みとして、今後も続けていきます。

日時 令和7年5月14日（水）10時00分から

場所 全道4か所にて参加（延べ参加数 全道8か所、46名）

①小樽ドリームビーチ会場（計10名） 本社・厚田増殖場作業所

- ・本社 8名
- ・小樽営業所 1名
- ・厚田増殖場作業所 1名



（小樽ドリームビーチ会場）

②イタンキ浜会場（計6名）

- ・本社 3名
- ・室蘭営業所 1名
- ・白老人工リーフ作業所 2名



（サロマ湖キャンプ場会場）

③常呂海水浴場会場（計2名）

- ・豊浜海岸作業所 2名

④サロマ湖キャンプ場会場（計3名）

- ・網走営業所 1名
- ・サロマ湖漁港 2名



（常呂海水浴場会場）



（イタンキ浜会場）

オフィス業務目標 オフィス業務における環境負荷低減活動

目標:CO2 排出量削減(昨年度比 3%減)



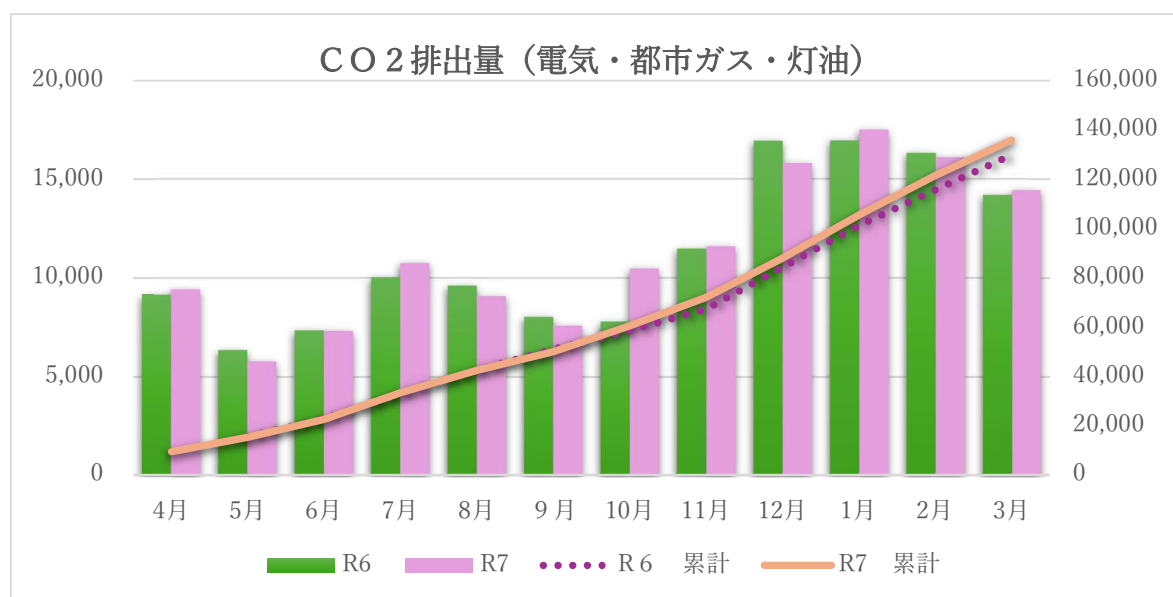
項目	R6 年度実績 最終評価時	R7 年度実績 最終評価時	差
電気	117,468kWh (62,610kg/CO2)	117,578kWh (62,904kg/CO2)	+110kWh (+294kg/CO2)
都市ガス	26,878 m ³ (55,102kg/CO2)	26,658 m ³ (54,650kg/CO2)	-220 m ³ (-452kg/CO2)
灯油	6,587 ㍓ (16,486kg/CO2)	7,291 ㍓ (18,254kg/CO2)	+704 ㍓ (+1,768kg/CO2)
合計	134,198kg/CO2	135,808kg/CO2	+1,610kg/CO2

「原油換算エネルギー使用量・温室効果ガス排出量算定シート」の係数による(令和6年度提出用係数による提出数値)
算定シートの単位は「t」であるが、北海道に提出しているkg換算としてシートを使用し算出。
累計での計算と、月ごとの積み重ねで計算すると差異が出るが、月ごとでの比較とする。

評価

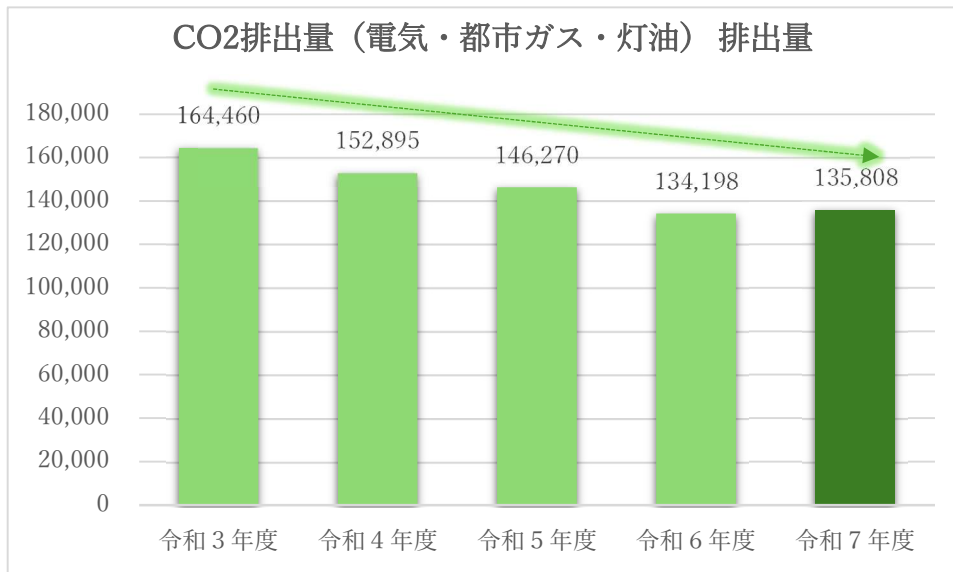
令和7年度のCO2排出量削減では、目標としていた昨年度比3%削減を下回り、約1.2%(1,610kg/CO2)の増加となった。

項目別に見ると、電気の使用量及び都市ガスの使用量は前年とほぼ同数程度であったが、冬季間の旧社屋使用率が高く、灯油の使用量が増加となったため、目標を達成することができなかった。次年度以降は、排出量削減への取り組みをより一層推進することとします。



過去4年間の推移をみても CO2 排出量は着実に減少傾向を示しており、5年間で約 28,652kg (17.4%) の削減を達成しています。

省エネ活動や職員の環境に対する意識改善の効果が表れていると考えられます。



自動車の燃費向上に向けたエコドライブの推進

自動車の燃費向上に向け、アイドリングストップの推進や、急発進・急ブレーキの抑制を意識し、エコドライブを推進しました。

コピー用紙使用量の削減に向けたペーパーレスの促進

用紙使用量削減に向け、書類の電子化やクラウドサービスを利用した書類共有によりペーパーレス化を推進し、また、可能な範囲での裏紙として再利用しコピー用紙使用量を抑制しました。

3Rの推進

本社各部、作業所等で余剰になった文房具や、再利用が可能な文房具を集め、新品を購入せずに再利用するなどにより、3R活動に積極的に取り組んでいます。

<3R>

- リデュース（物を大切に使いごみを減らす）
- リユース（使えるものは繰り返し使う）
- リサイクル（資源・エネルギーとして再利用する）



工事施工業務目標 作業所における環境負荷低減活動

目標:CO2 削減への取組チェックリストに基づく取組の推進

(昨年度以上実施)



評価

この取り組みは、北海道開発局が作成している「環境家計簿」の項目（33項目）に、当社独自の4項目を加えた合計37項目について、環境への負担を減らす活動として実施しています。

実施項目数の推移を見ると、令和4年度、5年度は平均10.4項目でしたが、令和6年度は平均11.3項目であり、今年度は11.2項目の実施となりました。

特に、恵庭基線通作業所での16項目、屯田茨戸道路作業所での15項目など、積極的な取り組みが見られ、目標としていた「昨年度以上の実施件数」を達成することができませんでしたが、現場での環境への意識が定着していることが分かります。

今後も、ソーラーパネルの利用やタブレット端末によるペーパーレス化など、効果的な取り組みを継続・拡大していきたいと考えています。

過年度実績

年度	実施項目数
令和6年度	平均11.3項目
令和5年度	平均10.4項目
令和4年度	平均10.4項目

令和7年度実績

No.	作業所名	取組数	No.	作業所名	取組数
1	厚田増殖場	8項目	7	新千歳 RESA 東	14項目
2	石狩湾新港用地	7項目	8	基線通道路設備	16項目
3	ウトロ漁港	11項目	9	白老人工リーフ	10項目
4	サロマ湖漁港	9項目	10	新千歳 RESA 西	9項目
5	北部載荷盛土	14項目	11	苫小牧周文岸壁	10項目
6	屯田茨戸道路	15項目	平均		11.2項目



移動式簡易計量器を使用



計測状況



ソーラーシステムを利用した休憩所



蓄熱状況を管理



間伐材を利用した工事看板



インタラクティブボードを使用しペーパーレス化



ソーラーパネルを利用した安全標識



ネオ吸音パネル設置により騒音を低減

4)「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組



これまでの取組

2004(H16)年	ISO14001の取得
2008(H20)年	さっぽろエコメンバー登録
2010(H22)年	小学校周辺清掃奉仕作業への参加(宮の森小学校) 河川美化活動への参加(鴨々川清掃)
2015(H27)年	勇建設コミュニティーガーデン活動開始
2016(H28)年	創立60周年記念事業植樹活動(大通公園4丁目・ライラック植樹) ウトナイ湖環境保全活動開始
2017(H29)年	ハイブリットカー導入開始 植樹活動(小金湯さくらの森)
2019(R1)年	いさみ号エンジン載せ替え(A重油から軽油へ変更)
2020(R2)年	4Rの推進開始(再利用棚の設置)
2021(R3)年	札幌市生物多様性さっぽろ応援宣言への登録
2022(R4)年	ゼロカーボン北海道チャレンジプロジェクト登録 北海道クールアースデー参加 北海道グリーンビズ認定登録 さっぽろふるさとの森づくり協定締結、活動開始 ゼロカーボンチャレンジャー登録 植樹活動(小金湯さくらの森)
2023(R5)年	グリーンカーテンプロジェクト開始 Hokkaido海のクリーンアップ大作戦への参加
2024(R6)年	フードバンクプロジェクト開始
2025(R7)年	Jブルークレジットの購入(白老町いぶり海岸人工リーフ)



本社近郊 桑園地区における清掃活動



ウトナイ湖における環境保全活動

フードバンクプロジェクト



寄付先 フードバンク イコロさっぽろ<令和6年10月30日(水)締結>

食品ロス削減の日(消費者庁制定)に合わせて「フードバンク イコロさっぽろ」と寄贈品に関する合意書を締結し、令和6年11月13日に初回寄付を実施しました。社内でフードドライブを実施し、定期的に寄付を実施しています。

この活動では、まだ食べられる食品を必要としている方々にお届けすることで、食品の無駄な廃棄を減らすことができました。食品を廃棄せずに活用することは、廃棄物処理の際に出る温室効果ガスの削減にもつながっています。

また、フードドライブ BOX を1階の正面玄関に常設したことで、いつでも食品を寄付できる環境が整い、社員一人一人が食品ロスについて考えるきっかけにもなりました。

令和7年度末実績として延べ16回の寄付(重量99.53kg)をし、継続的な活動として定着してきています。



イコロ代表片岡さんと坂社長



BCP 備蓄での余剰品を提供



作業所からもフードバンクに提供品



常設のフードドライブ BOX(本社正面玄関前)

J ブルークレジットの購入



新たな取組として、道内建設業界で初めて白老町のブルーカーボンを購入し、地域の環境保全活動に参画しました。

(1) 購入内容

- ・クレジット名: 白老町ブルーカーボンをクレジット
- ・購入量: 1.0t-CO₂
- ・購入日: 令和7年9月26日

(2) プロジェクトの概要

本クレジットは、白老町いぶり海岸の人工リーフに繁茂する海藻類による CO₂ 吸収量をもとに創出されたものである。当社は同地区において2年連続して施工しており、工事実施箇所における環境保全活動への貢献として本クレジットを購入した。

(3) 環境価値

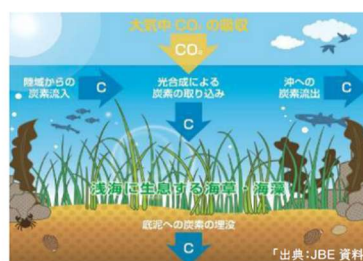
- ・海岸侵食防止と生態系保全
- ・藻場による CO₂ 吸収(ブルーカーボン)
- ・地域漁業の振興支援
- ・環境教育活動への貢献
- ・道内建設業界における先進的な取組事例



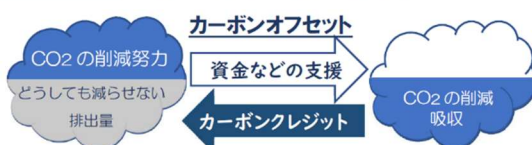
ブルーカーボンとは

藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素のことをブルーカーボンと呼びます。吸収源対策の新しい選択肢として世界的に注目されています。

ブルーカーボンの主な吸収源として、海草藻場(海草・海藻)や湿地・干潟、マングローブ林があげられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。



カーボンオフセット



温室効果ガスの排出を、できる限り減らす努力が必要です。しかしながら、自身ではどうしてもゼロにできない排出量については、他者による温室効果ガスの削減活動に投資すること等により埋め合わせる(=カーボン・オフセット)という方法のひとつです。

出典：国土交通省

5) 工事施工時の環境、地域への配慮



作業所では、工事により発生する騒音や振動を可能な限り小さくするため、低騒音・低振動型の重機を使用するとともに、騒音・振動計を設置してリアルタイムで計測し周辺環境に与える影響を低減しています。また、地域への貢献活動にも積極的に取り組んでおりますので活動の一部を、ご紹介します。



環境への配慮



タイヤ洗浄装置を複数台設置。また道路汚損を防止するため日々、散水車による清掃活動を実施



ICT 建機での施工により、従来機に比べ燃料消費量を約15%削減できCO2排出量を削減



移動にトゥクトゥク(電気自動車)を活用



防音シートで覆い、パキユーム車の騒音を低減

地域貢献活動



モエレ沼公園 未来の森づくり活動手伝い



モエレ沼公園 伐採木の積み込み、搬出



屯田北自治会夏祭り設営に参加



自治会のみなさまと記念撮影

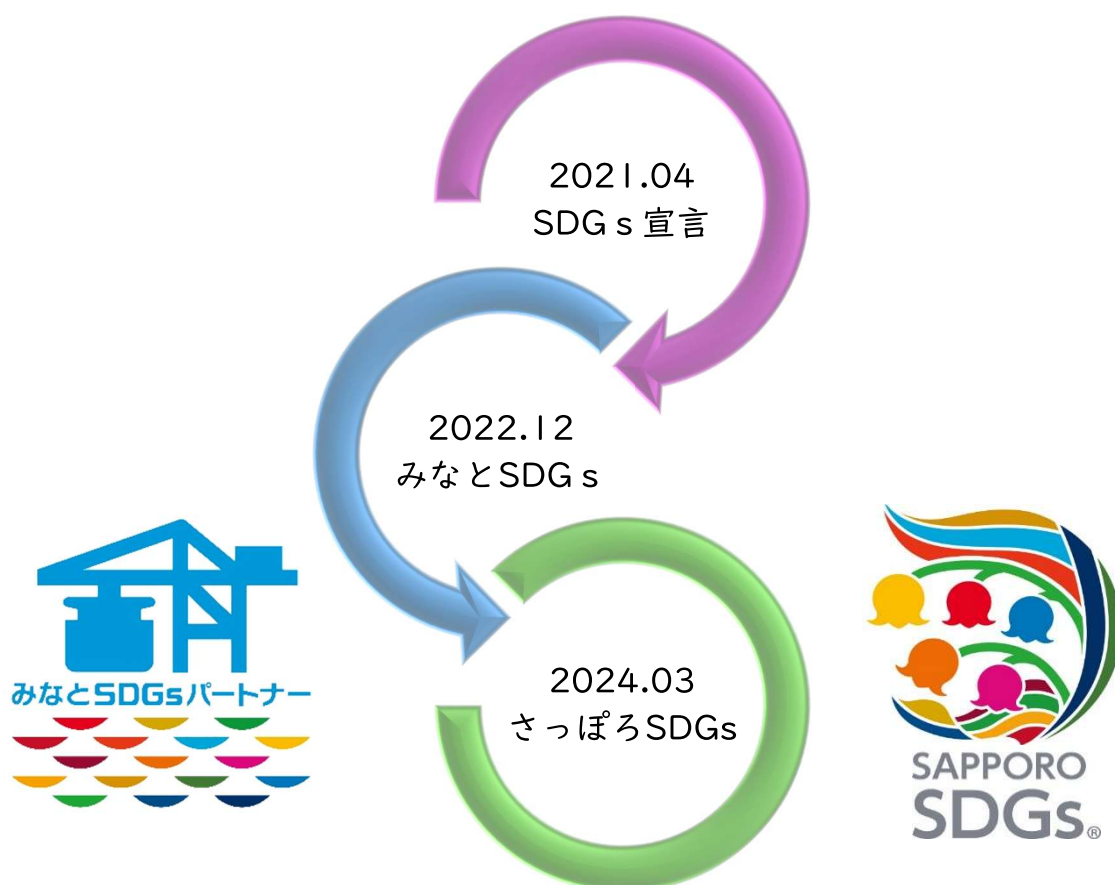


近隣小学校の樹木伐採作業



近隣の民家や工事区域外の市道を除雪

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境報告書2026(2025年度活動報告書)

問い合わせ先/勇建設株式会社 TEL/011-221-0171 FAX/011-231-0209